

業績(2017年度)

A. 原著論文

1. Imatoh T, Sai K, Hori K, Segawa K, Kawakami J, Kimura M, Saito Y: Development of a novel algorithm for detecting glucocorticoid-induced diabetes mellitus using a medical information database. *J Clin Pharm Ther* 42: 215–220, 2017
2. Harauchi S, Osawa T, Kubono N, Itoh H, Naito T, Kawakami J: Transfer of vaginal chloramphenicol to circulating blood in pregnant women and its relationship with their maternal background and neonatal health. *J Infect Chemother* 23: 446–451, 2017
3. Mino Y, Naito T, Shimoyama K, Ogawa N, Kawakami J: Mycophenolic acid exposure and complement fraction C3 influence inosine 5'-monophosphate dehydrogenase activity in systemic lupus erythematosus. *Ann Clin Biochem* 54: 490–494, 2017
4. Shibata K, Naito T, Okamura J, Hosokawa S, Mineta H, Kawakami J: Simple and rapid LC-MS/MS method for the absolute determination of cetuximab in human serum using an immobilized trypsin. *J Pharm Biomed Anal* 146: 266–272, 2017
5. Taguchi R, Naito T, Sato H, Kawakami J: Validated LC-MS/MS method for the simultaneous determination of amlodipine and its major metabolites in human plasma applied of hypertensive patients. *Ther Drug Monit* 39: 625–631, 2017
6. Suzuki Y, Naito T, Kawakami J: Validated LC-MS/MS method for simultaneous determination of aripiprazole and its three metabolites in human plasma. *Chromatographia* 80: 1805–1812, 2017
7. Abe K, Suzuki H, Maekawa M, Shimada M, Yamaguchi H, Mano N: Matrix effect-corrected liquid chromatography/tandem mass-spectrometric method for determining acylcarnitines in human urine. *Clin Chim Acta* 468: 187–194, 2017
8. Ikeya S, Sakabe J, Yamada T, Naito T, Tokura Y: Voriconazole-induced photocarcinogenesis is promoted by aryl hydrocarbon receptor-dependent COX-2 upregulation. *Sci Rep* 8: 5050, 2018
9. Tashiro M, Naito T, Kagawa Y, Kawakami J: Influence of cytochrome P450 genotype on the plasma disposition of prochlorperazine metabolites and their relationships with clinical responses in cancer patients. *Ann Clin Biochem* (in press, 2017)

B. 総説

1. 八木達也: 注目の新薬情報「スインプロイク錠 (ナルデメジントシル酸塩)」. 連載・医薬品情報 (DI) 室より. *医薬ジャーナル* 53(8): 1945–1947, 2017

2. 見野靖晃: 注目の新薬情報「ナルサス錠、ナルラピド錠 (ヒドロモルフォン塩酸塩)」. 連載・医薬品情報 (DI) 室より. 医薬ジャーナル 53(9): 2147-2149, 2017
3. 八木達也: 注目の新薬情報「インチュニブ錠 (グアンファシン)」. 連載・医薬品情報 (DI) 室より. 医薬ジャーナル 53(10): 2344-2346, 2017
4. 堀雄史: 特定機能病院における承認要件見直しへの対応～医療安全対策の強化に向けて～. 連載・リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～(119). 医薬ジャーナル. 53(10): 2301-2304, 2017
5. 内藤隆文: 国立大学附属病院海外実務研修に参加して. 日病薬誌 53:876-877, 2017
6. 川上純一: 医療現場の視点から: リバーストランスレーショナルリサーチとしての薬剤疫学. 薬学雑誌 137: 681-683, 2017
Kawakami J: From a Viewpoint of clinical settings: Pharmacoepidemiology as reverse translational research. YAKUGAKU ZASSHI 137: 681-683, 2017
7. 川上純一: 力や勇気を与えてくれる薬事新報. 週間薬事新報創刊 3000 号記念, 薬事新報 No. 3000 (2017 年 7 月 1 日), p.7
8. 柴田海斗: 妊娠は抗 TNF α 抗体薬の母体血中濃度を変化させる要因となるか. トピックス. ファルマシア 54(3): 258, 2018

C. 報告書

1. 内藤隆文, 志田拓頭, 川上純一: 骨粗鬆症患者におけるデノスマブの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明. 研究助成報告集. 公益財団法人骨粗鬆症財団 70-76, 2017
2. 印南一路 (委員長), 伊藤伸一, 川上純一, 佐々木啓一, 佐藤久美子, 高村洋子, 津留英智, 松原由美: 夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査報告書, 平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査 (平成 28 年度調査), 2018.
3. 武藤正樹 (委員長), 市川朝洋, 緒方宏泰, 川上純一, 北村光司, 小山信彌, 坂巻弘之, 鈴木邦彦, 田中俊幸, 永田泰造, 野島康一, 藤原康弘, 増原慶壮, 三浦哲也, 三宅泰介, 山谷明正, 吉田和正: 平成 28 年度ロードマップ検証検討事業 (厚生労働省医政局経済課委託事業) 報告書, 2017

D. 記事・寄稿

1. 川上純一: PBPM をチーム医療の推進と薬剤師の対人業務強化に活かす: チーム医療と PBPM. ファーマシストぶらす 31: 2-4, 2017

2. 川上純一: 川上純一@浜松医科大学. モノローグ No.26, HosPha 2: 14–15, 2018

E. 番組出演・報道

1. 川上純一: 病棟薬剤業務実施加算「18 年度改定で回復期リハの評価を」日本病院薬剤師会・川上純一副会長インタビュー. 薬事ニュース No. 4302(2017 年 4 月 4 日), p.10
2. 川上純一: マクロな視野で活躍する薬剤師を目指せ. 薬剤部の窓 Vol.18, MMJ(毎日メディカルジャーナル) 13 (3): 328–329, 2017(毎日新聞出版, 2017 年 6 月号)
3. 川上純一: 日病薬が 18 年度改定要望 外来患者に対する薬学的管理の評価を. Pharmacy Newsbreak No. 961(2017 年 6 月 20 日), p. 2–3
4. 川上純一: 「病棟薬剤業務実施加算」の対象拡大に意欲: 回復期リハ、地域包括ケア病棟などを視野. 薬事ニュース No. 4312(2017 年 6 月 23 日), p.1
5. 川上純一: くすりの知識と上手な使い方: 浜松医科大学公開講座 2017「からだも心も若々しく～伸ばそう健康寿命～」. 静岡新聞 No. 27197(2017 年 10 月 15 日), p.19
6. 川上純一: くすりの知識と上手な使い方. SBS ラジオ「浜松医科大学公開講座 2017 からだも心も若々しく～伸ばそう健康寿命～」, 2017 年 10 月 15 日(放送)
7. 川上純一: 特定機能病院、管理者を選任する「会議体」で継続審議 厚労省検討会. メディアファクス No. 7665(2017 年 11 月 6 日), p.4
8. 川上純一: 企業から包括データ提出を:「使用上の注意」改定の方向: 日本薬剤疫学. 薬事日報 No. 11949(2017 年 11 月 22 日), p.2
9. 川上純一: 約 60 のシンポジウムを開催「次世代を担う人材育成」: 第 27 回日本医療薬学会年会(幕張). 薬事新報 No. 3023(2017 年 12 月 14 日), p.22–23
10. 川上純一: 日本病院薬剤師会 病院薬局協議会を開催. 薬事新報 No. 3023(2017 年 12 月 14 日), p.20–21
11. 川上純一: 調剤財源での病院薬剤師の評価には否定的: 日病薬・木平会長、院外・院内格差「建て付け違う」. Pharmacy Newsbreak No. 1080(2017 年 12 月 14 日), p.5
12. 川上純一: 日病薬・木平会長 調剤報酬財源で院内業務の評価、「言う立場にない」. リスファクス No. 7440(2017 年 12 月 14 日), p.6
13. 川上純一: 院外・院内格差「建て付け違う」、日病薬・木平会長: 調剤財源での病院薬剤師の評価には否定的. 日刊薬業 No. 14813(2017 年 12 月 15 日), p.3
14. 川上純一: 敷地内薬局「反対」の立場示す: 日病薬・木平会長「決してトーンダウンではない」. 薬事日報 No. 11959(2017 年 12 月 15 日), p.2
15. 川上純一: 院内・院外処方 of 価格差「そもそも建て付け違う」: 日病薬・木平会長. 薬事日報 No. 11960(2017 年 12 月 18 日), p.2

16. 川上純一: 日病薬 次期会長候補に現職の木平氏を選出. Pharmacy Newsbreak No. 1126 (2018年2月27日), p.3
17. 川上純一: 日病薬、18年度事業計画案を了承: かかりつけ薬剤師・薬局との連携など明記. Pharmacy Newsbreak No. 1126(2018年2月27日), p.3-4
18. 川上純一: 次期会長候補に現職の木平氏を選出 日病薬. メディファクス No. 7738(2018年2月28日), p.9
19. 川上純一: 日病薬 木平現会長を信任: 若手人材で委員会の活性化へ. 薬事日報 No. 11987(2018年2月28日), p.1
20. 川上純一: 日病薬次期役員候補者選挙: 立候補者全員を信任. 薬事新報 No. 3035 (2018年3月1日), p.3-4
21. 川上純一: 日薬・山本会長の続投が確定へ: 副会長候補者の立候補も定数5人以内に. 薬事ニュース No. 4348(2018年3月2日), p.1
22. 川上純一: 木平会長が再選、副会長候補も揃って当選: 日病薬・川上副会長 全代議員からの投票を獲得「会員からいただいた力を武器に戦う」. 薬事ニュース No. 4348(2018年3月2日), p.8
23. 川上純一: 18年度改定、制度の根幹変えた-浜松医大・川上氏: 服用薬剤調整支援料、病院と薬局の「橋桁」. 薬事日報 No. 11989(2018年3月5日), p.2
24. 川上純一: 山本会長「信任採決」で3期目へ、全代議員起立: 日薬役員候補選 副会長には新任2人を含む5人が決定. Pharmacy Newsbreak No. 1135(2018年3月12日), p.1
25. 川上純一: 日薬執行部 波乱なく全候補を信任、「お友達」組閣は否定. リスファクス No. 7496(2018年3月12日), p.4
26. 川上純一: 日病薬との一体化「まずは様々な連携から」山本会長. Pharmacy Newsbreak No. 1136(2018年3月13日), p.9-10
27. 川上純一: 18年度改定「評価体系などを根本からつくり変える」日病薬・川上副会長、病院薬剤師向けセミナーで. CB News マネジメント, 2018年3月14日, <https://www.cbnews.jp/news/entry/20180313194954>
28. 川上純一: 山本会長、「信任」で3選-薬機法見直しや需給が課題: 日薬・臨時総会. 薬事日報 No. 11993(2018年3月14日), p.1
29. 川上純一: 診療報酬改定と広がりつつある薬剤師の役割. (1)医療政策と求められる薬剤師像. ラジオ NIKKEI「井手口直子のメディカル・カフェ」, 2018年3月14日(放送)
30. 川上純一: 診療報酬改定と広がりつつある薬剤師の役割. (2)30年度診療報酬改定のポイントと薬剤師の役割. ラジオ NIKKEI「井手口直子のメディカル・カフェ」, 2018年3月28日(放送)

F. 著書・翻訳

1. 川上純一：フォーミュラーとは何か. 第 1 章ファーミュラー概論編, フォーミュラー編集委員会(代表: 増原慶壮)編, フォーミュラー: エビデンスと経済性に基ついた薬剤選択, 薬事日報社, 東京, 2017, p.26-32
2. 川上純一: 病院経営・管理への貢献に向けた薬剤部門マネジメントの取り組み, 医療経営白書編集委員会(代表: 吉原健二), 医療経営白書 2017-2018 年版, 医療大変革期の組織改革と人材育成: 地域ニーズに即した病医院経営の実践, 日本医療企画, 東京, 2017, p.47-53
3. 川上純一(監修): バイオシミラーとは: バイオシミラー(バイオ後続品)を正しくご理解頂くために, 協和発酵キリン, 東京, 2017
4. 見野靖晃, 川上純一: 血液透析患者における薬物動態の特徴を教えてください. 加藤明彦(編), いまさら訊けない! 透析患者薬剤の考えかた、使いかた Q&A Ver.2, 中外医学社, 東京, 2018, p.1-5
5. 川上純一: ジェネリック医薬品, 第 6 章医薬品開発・薬物治療の法的側面, B 薬事行政, 日本臨床薬理学会(編), 臨床薬理学 第 4 版, 医学書院, 2017, p.378-381
6. 堀雄史, 川上純一: 第1章 薬物治療の基礎, 井上智子, 窪田哲朗編, 臨床薬理学 第 1 版 第 2 刷(系統看護学講座 別巻), 医学書院, 東京, 2016, p. 6-36

G. 学会活動

【特別講演・シンポジウム・受賞講演など】

国内学会

1. 川上純一: 地域包括ケアシステム時代における薬剤師の役割. 第1回日本老年薬学会学術大会, 東京, 2017 年 5 月
2. 川上純一: 後発医薬品使用の現状と問題点. 第 118 回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 広島, 2017 年 5 月
3. 川上純一: 医薬政策の動向と 2018 年度改定に向けた議論: ジェネリックとフォーミュラーへの対応. 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第 11 回学術大会, 名護, 2017 年 5 月
4. 佐藤聖, 内藤隆文, 川上純一: がん悪液質の病態時におけるオキシコドンの体内動態、中枢症状および炎症性サイトカインの関係. がん化学療法における臨床薬理学研究. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017 年 7 月
5. 川上純一: 医療政策の動向と 30 改定に向けた議論: ジェネリックの使用促進. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 47 回学術大会, 前橋, 2017 年 8 月

6. 内藤隆文: 医療現場における非がん性疼痛疾患への NSAIDs と神経障害性疼痛治療薬の使用について. 「鎮痛薬を考える」ー有効で安全な選び方、減らし方. 第 8 回日本アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会学術大会, 横浜, 2017 年 9 月
7. 内藤隆文: ミコフェノール酸. 免疫抑制薬 TDM 標準化ガイドライン: version 2 の報告. 第 34 回日本 TDM 学会・学術大会, 京都, 2017 年 9 月
8. 内藤隆文: 腎移植患者やループス腎炎患者におけるミコフェノール酸モフェチルの使い方. 移植患者並びに慢性腎不全患者における免疫抑制薬の適正使用. 第 11 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会, 博多, 2017 年 9 月
9. 川上純一: 医療安全管理における薬剤師の職責と可能性. 第 78 回九州山口薬学大会, 宮崎, 2017 年 9 月
10. 川上純一: ジェネリック・フォーミュラーへの対応とチーム医療: 医薬政策の動向を含めて. 第 11 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2017, 福岡, 2017 年 10 月
11. 川上純一: 医療政策の動向とジェネリックの使用促進: 30 年度診療報酬改定に向けた議論. 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 徳島, 2017 年 10 月
12. 八木達也: 薬物血中濃度測定の実際と応用. リネゾリドの血中濃度をどのように活用するか! ? -リネゾリドの臨床研究の知見から-. 第 64 回日本化学療法学会東日本支部総会/第 66 回日本感染症学会東日本地方会学術集会合同学会, 東京, 2017 年 11 月
13. 川上純一: 業務・教育・研究, 組織理念と方針に基づいた薬剤師人材の育て方: 特別企画シンポジウム: 次世代を担う臨床薬剤師の育成と組織づくり. 第 27 回日本医療薬学会年会, 幕張, 2017 年 11 月
14. 石田卓矢: がん性疼痛患者における CYP3A5 遺伝子型および性差に基づく血中フェンタニル濃度と 4 β -水酸化コレステロール濃度との関係. Postdoctoral Award 受賞講演. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017 年 11 月
15. 内藤隆文: 薬物療法専門薬剤師の研究活動および職員教育との関わり. 薬物療法専門薬剤師はなぜ必要か! ー最適な薬物療法に求められるスーパージェネラリストの重要性と今後ー. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017 年 11 月
16. 見野靖晃: ミコフェノール酸. 免疫抑制薬 TDM 標準化ガイドライン version 2 の策定と今後. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017 年 11 月
17. 見野靖晃: 病院薬剤師による臨床研究の進め方. 若手薬剤師にもできる! 医療薬学研究ー研究マインドを持つことの重要性ー. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017 年 11 月
18. 八木達也: 薬物療法専門薬剤師が支えるチーム医療ー質の高い薬物治療支援を実践するにはー. 薬物療法専門薬剤師が行うべきことは? -臨床業務・臨床研究・教育を中心に-. 日

本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2017, 鈴鹿, 2017年11月

19. 川上純一: 市販後の医薬品評価に関する医療現場での課題と取り組み: 改正 GPSP 省令下における市販後医薬品のリスクとベネフィット評価. 第 23 回日本薬剤疫学会学術総会, 東京, 2017年11月
20. 川上純一: フォーマリナーとチーム医療による薬物治療管理とジェネリック選択. 近畿薬剤師合同学術大会 2018 (第 39 回日本病院薬剤師会近畿学術大会・第 20 回近畿薬剤師学術大会), 京都, 2018年2月
21. 内藤隆文: 患者情報の多面的評価に基づく薬物治療の適正化. 第 41 回佐藤記念国内賞受賞講演. 日本薬学会第 138 年会, 金沢, 2018年3月
22. 吉川望美: 大学病院における人材育成: 若手薬剤師にとっての魅力は何か. 若手における男女共同参画と実際の現場における取り組み (理事会企画シンポジウム). 日本薬学会第 138 年会, 金沢, 2018年3月

【一般発表】

国際学会

1. Miyadera Y, Naito T, Yamada T, Kawakami J: Validated LC-MS/MS method for determination of total and free daptomycin in human plasma and its clinical application. 6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2017). May 2017 (Stockholm, Sweden)
2. Naito T, Harauchi S, Osawa T, Kubono N, Itoh H, Kawakami J: Transfer of vaginal chloramphenicol to circulating blood in pregnant women and its relationship with their maternal background and neonatal health. 6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2017). May 2017 (Stockholm, Sweden)
3. Sato H, Naito T, Tanaka H, Kawakami J: Relationship between the oxycodone pharmacokinetics and plasma 4 β -hydroxycholesterol in cachectic cancer patients. 13th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2017). June 2017 (Prague, Czech Republic)
4. Tanaka H, Naito T, Sato H, Kawakami J: Impact of CYP2D6 phenotype on tramadol pharmacokinetics and metabolic pathways in cancer patients. 13th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2017). June 2017 (Prague, Czech Republic)
5. Yagi T, Naito T, Kato A, Hirao K, Kawakami J: Detection of drug interaction between warfarin and antibacterial agent that has susceptibility to Bacteroides spp. using a medical information

- database. 13th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2017). June 2017 (Prague, Czech Republic)
6. Hori K, Kato A, Kawakami J: Detection and validation of bullous pemphigoid associated with dipeptidyl peptidase IV inhibitors using a hospital database. 33rd International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Aug 2017 (Montreal, Canada)
 7. Mino Y, Oshiro J, Yamada T, Naito T, Kawakami J: Description of the Boxed warnings in package insert of prescription medicines in Japan. 46th ESCP Symposium on Clinical Pharmacy. Oct 2017 (Heidelberg, Germany)
 8. Ishida T, Naito T, Suda T, Kawakami J: The inter-relationships between the plasma erlotinib metabolites, serum total bilirubin, and diarrhea symptoms in non-small cell lung cancer patients. 46th ESCP symposium on Clinical Pharmacy. Oct 2017 (Heidelberg, Germany)
 9. Taguchi R, Naito T, Sato H, Ogawa N, Kawakami J: Validated LC-MS/MS method for the simultaneous determination of amlodipine and its major metabolites in human plasma and its clinical application to patients with hypertension. The 17th Hamamatsu-Kyungpook Joint Medical Symposium. Nov 2017 (Daegu, Korea)
 10. Yoshikawa N, Naito T, Yagi T, Kawakami J: Impact of concomitant opioid analgesics and cachexia stage on pregabalin pharmacokinetics and central symptoms in cancer patients. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2017 Midyear). Dec 2017 (Orlando, FL, USA)
 11. Imoto Y, Naito T, Ono T, Kawakami J: Simultaneous determination of itraconazole and its major metabolites in human plasma using an LC-MS/MS and its clinical application. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2017 Midyear). Dec 2017 (Orlando, FL, USA)
 12. Hoshikawa K, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination of tolvaptan and its five metabolites in human plasma using a simple gradient liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry and its clinical application. 119th Annual Meeting of the American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics (ASCPT 2018 Annual Meeting). Mar 2018 (Orlando, FL, USA)
 13. Suzuki Y, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination method for aripiprazole and its three metabolites in human plasma using an isocratic LC-MS/MS applied to schizophrenia patients. 119th Annual Meeting of the American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics (ASCPT 2018 Annual Meeting). Mar 2018 (Orlando, FL, USA)

国内学会

多数のため省略

H. 学会・会議開催

1. 第8回研究室リトリート, 浜名湖ロイヤルホテル, 浜松, 2017年7月
2. 第2回薬剤部特別研究セミナー(シンシナティ小児病院医療センター, シンシナティ大学医学部小児科学准教授福田剛史先生), 浜松医科大学, 浜松, 2017年10月

I. 研究会

1. 川上純一: 地域包括ケアシステム時代における病院薬剤師の役割を考える. GIFU Pharmacy Director Seminar, 岐阜, 2017年6月
2. 川上純一: 医療政策の動向と30年度診療報酬改定に向けた議論. 第4回 KPDC (Kitakyusyu Pharmacy Director Conference), 北九州, 2017年7月
3. 川上純一: 医療政策の動向と30年度診療報酬改定に向けた議論. 第1回 Wakayama Pharmacy Director Seminar, 和歌山, 2017年7月
4. 川上純一: 30年度改定を見すえた病院薬剤部・薬剤師・地域連携のあり方. Pharmacy Director Seminar, 松山, 2017年7月
5. 川上純一: 30改定に向けた議論とチーム医療推進・PBPMの最新の話題. 第1回 Miyagi Pharmacy Director Seminar, 仙台, 2017年7月
6. 川上純一: 医療政策と病院薬剤師: 30年度診療報酬改定に向けて. 中日本病院薬剤部長カンファレンス, 名古屋, 2017年7月
7. 青野浩直: チーム医療で活躍する病院薬剤師になるために. 第18回青森県臨床薬学研究会, 青森, 2017年8月
8. 川上純一: 30年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. Muroran Pharmacy Director Seminar, 室蘭, 2017年9月
9. 川上純一: 30年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. HAKODATE Pharmacy Director Seminar, 函館, 2017年9月
10. 川上純一: 医療政策の動向と薬剤部門としての病院経営への関与と実践. 第1回 Shiribeshi Pharmacy Director Seminar, 小樽, 2017年9月
11. 川上純一: 医療政策の動向と大学病院薬剤部長に今後求められること. 第1回 Tokyo Pharmacy Director Seminar, 東京, 2017年10月
12. 川上純一: 病院薬剤師関連の医療政策の動向とPBPMの現状. KPDS (Kyoto Pharmacy Director Seminar) 2017, 京都, 2017年10月

13. 川上純一: 30 年度診療報酬改定に向けた議論と病院薬剤師に求められること. 病院薬剤師の為の学術講演会, 横浜, 2017 年 11 月
14. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の方向性と病院薬剤部門に求められること. 長崎 Pharmacy Director Seminar, 長崎, 2017 年 11 月
15. 川上純一: 30 改定に向けた議論とチーム医療推進・PBPM の最新の話題. Pharmacist Seminar in Shizuoka, 静岡, 2017 年 11 月
16. 川上純一: 薬剤部門における人材育成と、30 年度診療報酬改定の方向性. Pharmacist Director Seminar in 三重, 津, 2017 年 11 月
17. 八木達也: 必要とされる薬剤師業務をどのように実践するか? 薬物治療管理・薬剤師育成・地域医療連携を通して. 薬剤師のためのライブシンポジウム (Live Symposium for pharmacist), 2017 年 11 月
18. 川上純一: 大学病院薬剤部を取り巻く医療制度や社会環境の変化. PU (Pharmacy of University) 研究会, 東京, 2017 年 12 月
19. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の方向性と病院薬剤師の未来. FUTURE (病院薬剤部対象 全国 TV/Web セミナー) 医療の未来を考える東京, 2017 年 12 月
20. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の方向性と病院薬剤師に求められること. PD セミナー in 鹿児島, 鹿児島, 2017 年 12 月
21. 志田拓顕: がん性疼痛のアセスメントと麻薬の服薬指導. がん疼痛に用いる薬剤とコミュニケーション. 薬剤業務検討会, 平成 29 年 12 月
22. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の方向性と病院薬剤師に求められること. MIYAZAKI Pharmacy Director Seminar, 宮崎, 2018 年 1 月
23. 川上純一: 地域包括ケア時代における薬剤師の役割: 30 年度診療報酬改定を目前にして. Pharmacist Seminar in 津島・海部, 名古屋, 2018 年 1 月
24. 川上純一: ジェネリック・バイオシミラーを取り巻く環境と医療政策. 桜山 IBD カンファレンス: IBD 治療を取り巻く環境とバイオシミラーについて, 名古屋, 2018 年 1 月
25. 川上純一: 病院薬剤師が知っておくべき 30 年度診療報酬改定の方向性. Kowa Web カンファレンス, 東京, 2018 年 2 月
26. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の方向性: 病院薬剤師関連. 第 1 回 Tokatsuhokubu Pharmacy Director Meeting, 柏, 2018 年 2 月
27. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定の方向性. TOKACHI DPC Hospital Pharmacy Director Seminar, 帯広, 2018 年 2 月
28. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定と医療政策の動向. Pharmacy Director Seminar in NAGAOKA, 長岡, 2018 年 2 月

29. 川上純一: 30 年度診療報酬改定のポイント: 病院薬剤師関連を中心に. 第 5 回あすか製薬学術講演会: ファーマシーマネジメントの実際, 福岡, 2018 年 2 月
30. 川上純一: 30 年度診療報酬改定のポイントと病院薬剤部門に求められること. Pharmacy Director Conference in 相模原, 相模原, 2018 年 2 月
31. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定と医療政策の動向. DPC Hospital Pharmacy Director Seminar in KUSHIRO, 釧路, 2018 年 2 月
32. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. TOYAMA Pharmacy Director Seminar, 富山, 2018 年 2 月
33. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. Pharmacy Director Conference in 姫路, 姫路, 2018 年 2 月
34. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. MISHIMA Pharmacy Director Seminar, 大阪, 2018 年 3 月
35. 川上純一: 病院薬剤師関連の医療政策の動向と PBPM. Oita Pharmacy Director Seminar, 大分, 2018 年 3 月
36. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. KOBE Pharmacy Director Seminar, 神戸, 2018 年 3 月

J. 学外講義・特別講演

1. 川上純一: 医療政策の今後の方向性と病院薬剤師の未来. 薬剤師フォーラム in Nagoya, 愛知県病院薬剤師会, 名古屋, 2017 年 4 月
2. 川上純一: 急性期病院の方向性と薬剤師の役割: 30 改定を見すえて. 大阪府下市立病院薬剤部長会学術講演会, 大阪, 2017 年 5 月
3. 川上純一: 病院薬剤師としてビジネスパーソンとして伸びていくために. 平成 29 年度日本病院薬剤師会新人研修会, 東京, 2017 年 5 月
4. 川上純一: 医療政策・診療報酬改定の方向性と大学病院薬剤師に求められること. 平成 29 年度国公立大学病院医療技術関係職員研修(薬剤部職員), 東京大学医学部附属病院, 東京, 2017 年 5 月
5. 川上純一: 薬剤師を巡る最近の話題. 平成 29 年度病院診療所薬剤師研修会, 日本薬剤師会, 福岡, 2017 年 6 月; 札幌, 2017 年 9 月; 東京, 2017 年 10 月; 大阪, 2017 年 11 月
6. 川上純一: 医療政策の動向と 30 改定に向けた議論. OPDC (Okinawa Pharmacy Director Conference), 沖縄県病院薬剤師会, 宜野湾, 2017 年 6 月
7. 川上純一: 医療政策の動向とジェネリックの使用促進: 2018 年度改定に向けた議論. 静岡県病院薬剤師会西部支部例会, 浜松, 2017 年 6 月

8. 川上純一: 医薬政策に関する最近の動向. 生涯教育研修会(第 2606 回診療協議会), 浜松市医師会, 浜松, 2017 年 6 月
9. 川上純一: 医療政策の動向と薬剤師に求められる役割: 抗凝固療法の考え方を含めて. 敦賀市薬剤師会学術講演会, 敦賀, 2017 年 6 月
10. 川上純一: 薬剤師による患者ケア: 薬局薬剤師に期待すること. 平成 29 年度第 1 回薬剤師生涯学習研修会, 栃木県薬剤師会・栃木県病院薬剤師会, 下野, 2017 年 7 月
11. 川上純一: 「成長して、信頼されて、活躍できる」病院薬剤師になるためのキーポイント: 臨床薬剤業務とチーム医療(NST)の推進も含めて. 静岡県病院薬剤師会・平成 29 年度新人研修会, 静岡, 2017 年 7 月
12. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の方向性と病院薬剤部の未来. 山梨県病院薬剤師会平成 29 年度第 2 回研修会, 甲府, 2017 年 9 月
13. 川上純一: くすりの知識と上手な使い方. 浜松医科大学公開講座 2017「からだも心も若々しく～伸ばそう健康寿命～」, 浜松医科大学・静岡新聞社・静岡放送, 浜松, 2017 年 9 月
14. 川上純一: 平成 30 年度診療報酬・介護報酬改定動向. 平成 29 年度全国済生会病院薬剤部(科・局)長研修会, 東京, 2017 年 9 月
15. 川上純一: ジェネリック医薬品の使用促進に向けて: 現状と課題. 第 4 回福耳会福岡地区耳鼻咽喉科講習会, 福岡地区耳鼻咽喉科専門医会・福岡県耳鼻咽喉科専門医会, 福岡, 2017 年 9 月
16. 川上純一: 薬学を学び社会で活躍しよう: 未来の医療を築く病院薬剤師. 徳島文理大学香川薬学部, さぬき, 2017 年 11 月
17. 川上純一: がん治療・緩和ケア領域における薬剤師業務と臨床研究: 30 年度改定や医療政策に関する動向もふまえて. 徳島文理大学がんプロフェッショナル養成コンソーシアム「チーム医療を担うがん専門医療人の育成」市民公開講座, 徳島, 2017 年 11 月
18. 川上純一: 30 年度診療報酬改定に向けた議論と病院薬剤部門マネジメント. 浜名湖ファーマシストマネジメントセミナー2017, 静岡県病院薬剤師会西部支部, 浜松, 2017 年 11 月
19. 川上純一: これからの病院薬剤師に期待される役割. 平成 29 年度熊本県病院薬剤師会研修会第 4 回病院薬剤師パワーアップセミナー, 熊本, 2017 年 11 月
20. 川上純一: 平成 30 年度診療報酬改定について. 平成 29 年度全国自治体病院協議会薬剤管理研修会, 東京, 2017 年 11 月
21. 石田卓矢: 病院薬剤師. 浜松市立高校職業研究会, 平成 30 年 1 月
22. 川上純一: 医療政策の動向と 30 年度診療報酬改定の方向性. 宮城県病院薬剤師会新年会特別講演会, 仙台, 2018 年 1 月
23. 川上純一: 30 年度診療報酬・調剤報酬改定の方向性. IWAKI Medical Forum, いわき市医

- 師会・福島県病院薬剤師会いわき支部・いわき市薬剤師会, いわき, 2018 年 1 月
24. 川上純一: 病院薬剤師業務の現状と課題. 厚生労働省平成 29 年薬剤師生涯教育推進事業次世代薬剤師指導者研修会, 日本薬剤師会, 東京, 2018 年 2 月
 25. 川上純一: 病院薬剤部門に求められること. 30 年度診療報酬改定、人材育成など. 第 13 回 東京市立病院薬剤協議会, 八王子, 2018 年 2 月
 26. 川上純一: 30 年度診療報酬改定の概要とジェネリック医薬品の使用促進. 全国健康保険協会静岡支部主催・静岡県病院薬剤師会共催セミナー, 浜松, 2018 年 2 月
 27. 川上純一: 平成 30 年度診療報酬改定と中小病院薬剤師への期待. 平成 29 年度中小病院薬剤師実践セミナー, 日本病院薬剤師会, 東京, 2018 年 3 月
 28. 川上純一: 30 年度診療報酬改定のポイント: 病院薬剤師関連. 茨城県病院薬剤師セミナー, 茨城県病院薬剤師会, つくば, 2018 年 3 月
 29. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. 静岡県病院薬剤師会学術講演会, 静岡, 2018 年 3 月
 30. 川上純一: 薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. 実践チーム医療・薬剤師 2018: 中小病院・診療所だからできること, 埼玉県病院薬剤師会, 大宮, 2018 年 3 月
 31. 川上純一: 平成 30 年度診療報酬改定のポイント: 薬剤師が担う地域連携と医薬品適正使用. 上越高齢者薬物療法セミナー, 新潟県病院薬剤師会・上越薬剤師会, 上越, 2018 年 3 月
 32. 川上純一: 病院薬剤師関連の 30 年度診療報酬改定のポイント. 第 6 回 OPDC (Okinawa Pharmacy Director Conference), 沖縄県病院薬剤師会, 那覇, 2018 年 3 月

K. 施設見学

1. 福田剛史先生(シンシナティ小児病院医療センター, シンシナティ大学医学部小児科学准教授), 2017 年 10 月 5 日
2. 今井志乃ぶ先生(独立行政法人国立病院機構本部 総合研究センター, 診療情報分析部, 主任研究員), 2017 年 12 月 26 日

L. 研究助成

1. 内藤隆文(代表), 川上純一(分担): 平成 29 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「がん患者における薬物代謝酵素の活性マーカーを用いたオピオイドの体内動態予測の評価」(平成 29–31 年度)(新規)
2. 川上純一(代表), 内藤隆文(分担): 平成 29 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「がん患者における病期に基づくオピオイドの鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築」

(27-29 年度) (継続)

3. 川上純一(分担), 堀雄史(分担), 今任拓也(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「新機序糖尿病治療薬の副作用に関する薬剤疫学研究とその応用」(平成 27-29 年度) (継続)
4. 堀雄史(分担), 今任拓也(分担), 佐井君江(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「医療ビッグデータを用いた免疫機序による重篤副作用の発症リスク要因の同定及び評価」(平成 27-29 年度) (継続)
5. 山田尚広(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「トキシコキネティクスに着目した第 3 世代アゾール系抗真菌薬の投与設計法の確立」(平成 29-31 年度) (新規)
6. 八木達也(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「術後患者におけるデクスメトミジンの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明」(平成 28-30 年度) (新規)
7. 堀雄史(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「医療情報データベースを用いた ARB の医薬品相互作用の探索法開発およびその機序解明」(平成 27-29 年度) (継続)
8. 見野靖晃(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「尿酸生成酵素阻害薬の至適投与設計法の確立」(平成 27-29 年度) (継続)
9. 大城隼也(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 奨励研究「関節リウマチ患者におけるタクロリムスの体内動態と炎症性サイトカインとの関係解明」(新規)
10. 志田拓顕(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 奨励研究「実臨床におけるデノスマブの体内動態の個人差要因およびその有効性・安全性の関係解明」(新規)
11. 加藤文美(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 奨励研究「抗がん剤投与における投与基準順守状況の解析及び非順守時の有害事象発現予測法の確立」(新規)
12. 丸山早織(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 奨励研究「薬剤耐性対策アクションプランに基づく周術期クリニカルパスにおける予防抗菌薬適正化」(新規)
13. 久保野尚子(代表): 平成 29 年度科学研究費補助金, 奨励研究「抗癌剤の母乳移行性および妊娠中の乳癌化学療法が児に及ぼす影響の評価」(新規)
14. 内藤隆文: 浜松医科大学. 平成 29 年度若手研究者の国際学会発表支援(新規)
15. 堀雄史: 浜松医科大学. 平成 29 年度若手研究者の国際学会発表支援(新規)
16. 見野靖晃: 浜松医科大学. 平成 29 年度若手研究者の国際学会発表支援(新規)
17. 八木達也: 浜松医科大学. 平成 29 年度若手研究者の国際学会発表支援(新規)
18. 石田卓矢: 浜松医科大学. 平成 29 年度若手研究者の国際学会発表支援(新規)
19. 佐藤聖: 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生に対する海外研究活動支援(新規)
20. 吉川望美: 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生に対する海外研究活動支援(新規)

21. 田中達也: 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生に対する海外研究活動支援(新規)
22. 井元優美: 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生に対する海外研究活動支援(新規)
23. 星川昂平: 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生に対する海外研究活動支援(新規)
24. 宮寺友香里: 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生に対する海外研究活動支援(新規)
25. 山田尚広(代表): 浜松医科大学. 平成 29 年度若手研究プロジェクト「ポリコナゾール N オキシシド体曝露による皮膚酸化ストレス発生機序の解明」(新規)
26. 柴田海斗(代表): 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生研究支援「可溶性 EGFR 活性測定に基づくセツキシマブの臨床効果および体内動態解析」(新規)
27. 田口怜奈(代表): 浜松医科大学. 平成 29 年度大学院学生研究支援「各種バイオマーカーによる副腎皮質ステロイド薬服用時の CYP3A4 活性変動の定量的評価」(新規)
28. 八木達也(代表), 賀川義之(分担): 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団. 第 26 回ヘルスリサーチ国内共同研究「抗菌薬投与による腸内フローラの変化に伴う併用薬剤の薬効・有害作用発現頻度の解析」(新規)
29. 山田尚広(代表), 見野靖晃(分担), 内藤隆文(分担): 公益財団法人臨床薬理研究振興財団. 第 42 回研究奨励金(平成 29 年度)「易感染性患者におけるポリコナゾール N オキシシド体の薬物動態・薬力学的評価」(新規)
30. 内藤隆文(代表), 志田拓頭(分担): 公益財団法人中富健康科学振興財団. 第 30 回研究助成金(平成 29 年度)「がん骨転移に対するデノスマブによる疼痛予防効果の個人差要因の解明」(新規)

M. 資格認定

1. 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 3 名
2. 日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師 1 名
3. 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 1 名
4. 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師 15 名
5. 日本病院薬剤師会 日病薬認定指導薬剤師 13 名
6. 日本病院薬剤師会 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習 受講 13 名
7. 日本医療薬学会 指導薬剤師 6 名
8. 日本医療薬学会 認定薬剤師 14 名
9. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師 1 名
10. 日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師 2 名
11. 日本臨床薬理学会 指導薬剤師 3 名
12. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師 6 名

13. 日本臨床薬理学会 認定CRC 1名
14. 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 9名
15. 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 10名
16. 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 1名
17. 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 4名
18. 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士 3名
19. 妊娠と薬情報センター拠点病院業務研修会 受講 4名
20. 日本薬剤疫学会 ファーマコビジランス・スペシャリスト認定 1名
21. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 レギュラトリーサイエンスエキスパート (PV分野) 1名
22. 日本DMAT 隊員 1名
23. 日本臨床化学会 認定臨床化学者 1名
24. 有機溶剤作業主任者 技能講習受講 1名
25. 普通第一種圧力容器取扱作業主任者 技能講習受講 1名

N. 施設認定

1. 日本医療薬学会 認定薬剤師研修施設
2. 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
3. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
4. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師研修施設
5. 厚生労働省薬剤師養成事業 実務研修生受入施設

O. 学位申請

1. 佐藤聖: 博士(医学) 浜松医科大学(2018年3月)「がん悪液質患者におけるオキシコドンの薬物動態、中枢症状および血清インターロイキン-6の関係. Relationships between oxycodone pharmacokinetics, central symptoms, and serum interleukin-6 in cachectic cancer patients」

P. 学位

薬学 6名

医学 6名

Q. 大学院生

浜松医科大学大学院医学系研究科博士課程の大学院生 11名
他大学博士課程の大学院生 2名